

保全管理計画に基づくどんぐり池拡大、整備に向けた鳥類モニタリング

滝川 蘭丸

金沢自然公園（金沢動物園）では、生物多様性の保全や園路沿いの安全性の確保など、金沢自然公園内における良好な森づくりの推進を目的に、令和2年に金沢自然公園保全管理計画が定められている。計画に基づき、周囲に飛来する野鳥の種数と羽数の増加を図るため、金沢自然公園内「どんぐり池」及び周囲環境の環境改善を実施した。

どんぐり池は約 100 m²の面積を持ち、深さが深底帯で 90 c m、沖帯で 45 c mある。また、立入禁止区域にあたるため人目にもつかない場所である。池の周辺にはイロハモミジやムクノキ、ケヤキ等が自生している。

環境改善の方法は池の拡大、周囲の木の剪定及び伐採とした。また、現在の「どんぐり池」に飛来する野鳥の把握のために環境改善の前に1年間モニタリングを実施した。事前モニタリングの調査期間は令和6年11月から令和7年10月の1年間とした。モニタリングの方法は月1回（毎月上旬）、8時から30分間のスポットセンサスにて実施した。また、金沢自然公園全体の野鳥の生息状況を把握するために月1回（毎月中旬）、金沢自然公園を動物園と植物区の2か所に分けてラインセンサスも実施した。

1年間のモニタリングで出現した鳥類の総種数と総羽数は15種203羽（どんぐり池のスポットセンサス）であった。同時期の動物園と植物区のラインセンサスの総種数と総羽数は動物園25種1013羽、植物区31種848羽であった。1年間モニタリングを終えたため、環境改善を実施する。なお、モニタリングは今後も継続し、月及び年変動を見る。